

Kandai Style

2020.12 Vol.485
関西大学通信



関大のAI人材教育

関大の

AI人材教育

画像の認識、外国語の翻訳、また掃除ロボットや自動運転など社会のいろいろな場面で人工知能(AI)を使ったサービスが普及するなか、世界中で深刻なAI人材不足が叫ばれています。日本でも、2025年までに大学や高等専門学校の全員が数理・データサイエンス・AIのリテラシーを習得することが育成目標として掲げられています。今月号の特集では、AI人材の育成を支援する関西大学の教育プログラムを紹介します。

求められるAI人材

「AI人材」とは、システムをプログラミングする技術者だけではありません。社会で生まれる膨大なデータ、いわゆるビッグデータを収集・解析し、社会問題の解決やビジネス活用のための知見を引き出すデータサイエンティスト、データ活用やシステム化を企画するプランナーなど、幅広い分野にまたがるAIの現場で必要とされる能力や人材はさまざまです。

システム理工学部 データサイエンティスト育成プログラム

快適・安全・安心で持続可能な社会を支える科学技術システムの創造に取り組むシステム理工学部では、今年からデータサイエンティスト育成プログラムが始動しています。

1年次ではコンピュータ科学への導入として、数学的な基礎とプログラミング技術を中心に学び、2・3年次ではプロジェクトチームによる開発を体験するPBL科目で応用力を高めます。4年次では企業との連携に基づき、AI・IoT技術開発インターンシップを実施。開発現場で求められる実践力を磨きます。4年間でビッグデータ活用の仕組みに精通し、有用なデータを的確に扱う力を養います。

インターンシップで現実世界により近いことを経験できました 長澤 由利奈さん(理工学研究科 博士課程前期課程2年次生)

昨年、パナソニック株式会社のインターンシップに参加しました。機械学習にはいろいろな手法があります。大学での研究ではCNN(畳み込みニューラルネットワーク)という画像認識でよく利用されるモデルを使っていますが、インターンシップで私に課せられた課題には異なる手法が必要でした。そこで企業担当者の指導の下、一から勉強しながら課題に臨みました。現場で仕事を進める上での情報共有やコミュニケーションの大切さも感じながら、現実世界により近いことを経験することができました。

大学では、資料や文献で理論を勉強するのはもちろん、簡単なことでも実際に自分の手で動かして学んできました。実社会で決められた期間内に結果を出すためには、より論理的思考力が求められます。データサイエンティスト育成プログラムでは、プログラミングや機械学習の基礎知識を学ぶことから始まり、時間をかけて応用力を養います。4年次で研究テーマにどう取り組んでいくか、仲間と協力し合って学びを深めてほしいですね。

今年は国際学会での発表がオンラインで行われるなど大変なこともありましたが、今は修士論文をまとめているところです。修了後は大学で得た知識を生かし、AI等を扱うエンジニアとしてモノづくりに関わってきたいです。



商学部

サービス・イノベーション特別プログラム(DSI)

「品格ある柔軟なビジネスリーダーの育成」を理念として掲げる商学部では、ゼミナールに加え、実践プログラムを用意しています。DSIプログラムでは特にデータマイニングに重点を置き、企業活動に新しい価値の創造をもたらす人材を育成・養成します。データマイニングとは、膨大なデータの中から特定のパターンやルールを見つけ出す技術。この技術の習得をイノベーターへのステップとし、大規模データの分析力、リサーチ力、コミュニケーション能力を鍛え、企業との共同プロジェクトに備えます。

実際の店舗のデータを使った分析に粘り強く取り組んでいます 末浪 好一郎さん(商学部3年次生)



昨年の秋、イギリスに留学しました。その期間に出会った他の学生のレベルを目の当たりにして、自分がいかに真剣に学業に向き合っていなかったかを痛感しました。帰国後は奮起し、DSIプログラムに挑戦しようと決めました。

今年の春学期は、データの扱い方や分析の基礎を学びました。遠隔授業が功を奏し、本来移動などに使っていた時間を、演習や発表に向けての資料作りにかけることができました。今進めているのは、北海道にあるスーパーの分析。実際の店舗のデータを利用し、競合店から受ける影響を分析しています。今年は現地調査が難しく、自分が算出したデータ上での傾向と実情が合っているのかを目で確かめることはできませんが、企業の方からアドバイスを頂きながら進めています。今後はコロナ禍での売上変動の分析を進め、今何が必要であるのか結論を出していきたいです。

実は、もともとパソコンに苦手意識がありました。でも、時間をかけて粘り強く取り組むうちに理解が進み、自信が持てるようになりました。時間をかけて一つのことを突き詰められるのは大学生活の醍醐味。このプログラムでの学びはマーケティングに特化していて、どの業界でも生きると思っています。将来は活躍の場を海外に広げていきたいです。

商学研究科

データサイエンティスト育成プログラム (DSプログラム) (博士課程前期課程 高度専門職養成コース)

高度な情報通信技術を用いて、企業内外に蓄積されている膨大なデータを活用して新しい価値を創り出すことができる人材、データサイエンティストを育成することを目的としています。ビッグデータのビジネス活用のためのスキル習得に焦点を当て、統計数理、計算機科学、意思決定科学といった領域の学際的・文理融合のカリキュラムが提供されています。

総合情報学部

データサイエンス教育プログラム

総合情報学部は、2021年4月から「データサイエンス教育プログラム」を開始します。学部発足以来26年、情報をキーワードに文系・理系の枠にとられない学びと研究を展開してきた総合情報学部には、データサイエンスを学ぶ場が脈々と提供されてきました。来年4月からは、カリキュラムの基盤である「3つの系(メディア情報系、社会情報システム系、コンピューティング系)」を横断する形で展開されているデータサイエンス系の科目群(データの収集や視覚化、統計処理やプログラミング等)を結び付けて体系化し、修了認定を行います。基礎プログラムではデータの利活用に関する理論と技術の習得を、応用プログラムではAI技術等のデータを高度に利用する理論と技術の習得を目指します。

●基礎プログラム

データ収集・表現・解析の基礎となる手法、社会と人間に関わる情報・データの利活用における課題や法的・倫理的事項について学ぶ。

●応用プログラム

デジタル化された情報やデータを高度に活用するための理論的知識、AI技術を駆使した情報システムの構築などの講義科目や実習科目により、社会における問題の発見やその解決法の模索など発展的な学習が期待される。



みんなで一緒に考えよう。
関大誌上教室

こちいい “ヒュツゲ” 時間の過ごし方

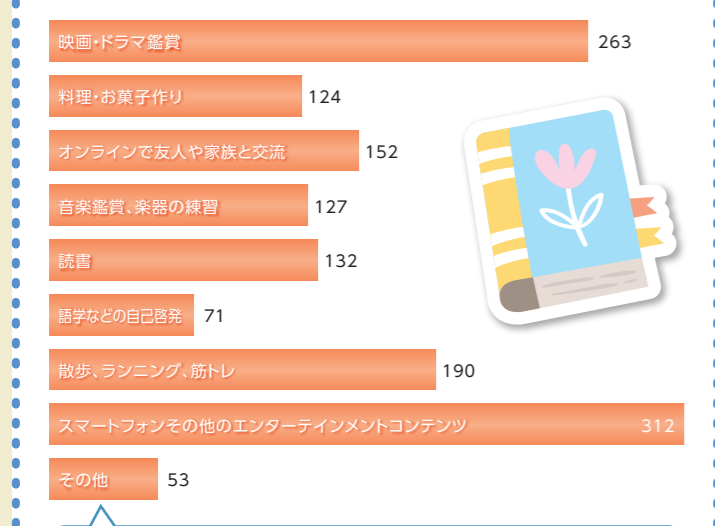
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、自宅で過ごす時間が増えた今、デンマークの“ヒュツゲ”という概念から学べるのではないのでしょうか。誌面を通してヒュツゲな時間の過ごし方を考えてみませんか。

HYGGE(ヒュツゲ)とは

言葉の起源はノルウェー語にあります。ヒュツゲの起源となったノルウェー語は「満ち足りること、満足できる暮らし」といった意味です。「人との温かいつながりをつくる方法」「心の安らぎ」「不安がないこと」もヒュツゲですし、「お気に入りのものに囲まれて過ごす幸せ」「心地よい一体感」もヒュツゲ。ヒュツゲは、何か存在する「もの」ではなく、その場の空気や経験をあらわします。 (『ヒュツゲ365日「シンプル幸せ」のつくり方』より)

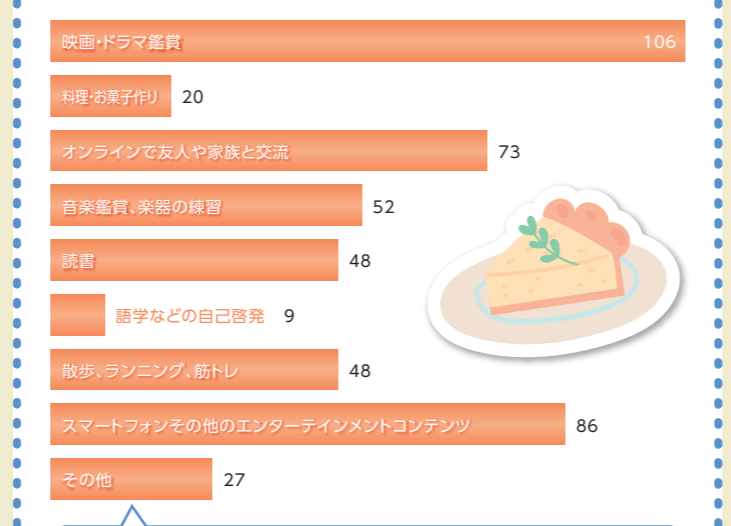
アンケート期間:8月8日~8月22日 / 対象者:学生 回答者数:469人

Q1 自宅での過ごし方についてお聞きします。外出自粛期間中、大学の授業以外で、どのように過ごすことが多かったですか? あてはまるものを3つまで選んでください。



Q2 Q1で「その他」と回答した方にお聞きします。具体的な内容をお聞かせください。資格取得のための勉強や就職活動などの回答がありました。

Q3 次のうち、もっとも「居心地が良く、心やすらぐ」時間の過ごし方はどれですか? あてはまるものを1つ選んでください。



Q4 Q3で「その他」と回答した方にお聞きします。具体的な内容をお聞かせください。ヨガをしている時間、ゆっくり入浴している時、好きな人たちと何気ない時間を過ごしている時等の回答がありました。

Q5 あなたにとって「居心地が良く、心やすらぐ」時間の過ごし方とは? 具体的なエピソードをまじえて教えてください。

あまりにも外に出なかったため、久しぶりに散歩した時はとても気持ちよかったです。近所にある川沿いをひたすら歩くことに夢になっていた。晴れた日にゆっくり歩くだけでも、体にも心にも健康的だと気付いた。

オンライン通話で、友人と動画サービスを同時上映して、一緒にみる。

趣味のお菓子作りをしている時間はとても有意義だった。家族にお礼を言ってもらえた時は特にうれしい気持ちになる。また、作ったお菓子をSNSにアップして反応を見るのも楽しい。

ラジオを聞いていると心が安らいた。一人暮らしで外出できない人と話す機会がなくなる。DJとリスナーの会話を聞いたり、視聴者に語りかけるような話し声を聞いたりすると気持ちが和らいた。

一日の終わりに、好きなキャンドルをたきながら、本を読んだり、ゲームをしたり、洋画を見たりしている時間が癒やし。キャンドルの優しい明かりと香りに、一日の疲れがとれていくようだった。

人と会って話している時。親しい人はもちろん、散歩へ出掛けた際に出会った初対面の方との挨拶や少しの会話でも幸せを感じた。自粛生活を通して多くの人と会話できるありがたさに改めて気付いた。

通学時間がなくなり、朝の時間に余裕ができたので、ガーデニングを始めた。毎日庭に出て、花の世話を楽しんでいる。朝陽を浴びて、花の成長を見る時間が、私の心安らぐ至福の時。うまく根付かなかったり、発芽しなかつたり悪戦苦闘の連続だが、暑さに負けず元気いっぱい咲いている様子に元気をもらっている。暗いニュースが続いて、陰鬱な気持ちになることもあるが、花を見ているだけで気持ちが晴れるようだった。

普段は平日・土日ともに実験と勉強で遅くまで大学に残っており、家事は母に頼ってばかりで家に帰っても寝るだけの生活だった。外出自粛をきっかけに、家族と過ごす時間が増えたことで、料理や洗濯を手伝って時間に余裕があれば母とお菓子を作り、それを父と食べる時間は心安らぐ過ごし方だと気付いた。以前は全国転勤のある仕事に就くつもりだったが、今は週末に家の手伝いができるように関西圏にしばらく就職活動をしてみようかとも考えている。

Q6 コロナ禍において日々の暮らしや身近な人との関係性について気付いたことや得たこと、新たに挑戦してみたことがあれば教えてください。

6月初旬のまだ外出が難しい時期に誕生日を迎え、例年にも増して周囲の人の温かさや大切さに気付くことができた。人とのつながりが薄くなって分、SNSなどを通してたくさんの人からメッセージを受け取った時は本当にうれしかったし、わざわざ仮装してビデオ通話してくれた友人や、自宅の近くまでプレゼントを持ってきてくれた幼馴染など、顔を見れることの喜びは何倍も大きかった。改めて、周りにいてくれる人を心から大切にしようと思った出来事。

人間関係についての問題がないのでストレスフリー。新しい出会いが新鮮。映画や本、配信動画を通して、環境問題に興味を持った。

どうにもできない状況に不満を言うのではなく、今できることはないだろうか?と考える行動することの大切さに気付いた。私はコロナ禍に就職活動を行い、志望業界が採用を中止したり選考方法を急きょ変更するなど大変だった。だが、別業界を見て視野を広げるなどの対応をしたことで、最終的に自分にぴったりの企業に出会うことができた。柔軟に対応する力は今後も大切になってくると感じた。

マスク作りに挑戦した。使い捨てマスクはごみになるので、母に手伝ってもらいながら自分用のマスクを作った。これまで学校やアルバイトで忙しい日々を送っていたので、家で物作りができたことが新鮮だった。作ってみると意外と簡単で、小学校や中学校で習ったミシンの使い方が役に立った。母は祖母や友人に手作りマスクを送っていて、みんなマスク不足に悩んでいたようでも喜んでくれたと聞き、直接会えない中でも誰かの役に立てることがあるということに気付かされた。

一番変わったのは、家族とのコミュニケーションの量。オンライン授業やリモートワークなどによって、夕食に家族がそろう機会が増えた。毎日みんなで食卓を囲んで、にぎやかに食事ができるのは数年ぶりのこと。友人には会えていないが、家族の温もりを再確認し、人とのつながりの大切さが身に染みだした。ウクレレを新たに始めて、ポロンポロンという音色に癒やされている。上達するまでまだまだ時間がかかりそうだが、せつなく挑戦したので気長にコツコツがんばりたい。

1年次生で友人がいない中、授業で4人でプレゼンテーションを行えたのが印象深かった。プレゼンの準備をする中で、仲間と不安を共有したり、何気ない雑談をすることの大切さを改めて感じた。

当たり前だったことがどれだけ特別だったか気付かされた。普通にできていたことがどれだけありがたいかが分かった。大切な人だからこそ今は会わないということがその人のためにも自分のためにも重要で、それこそがその人を大事に思うことなのだと知った。



PROFESSOR'S COMMENTS
文学部 森貴史教授

一般的に、人間は「社会的(ソーシャル)」な生きものである。たいいていは人との関わりなしには生きていけないもの。ところが、今回のコロナ禍では、「直接」的な人間関係を

意図的に断絶しなければなりません。そして、世界中の人々が一人で楽しく過ごすために努力したのです(しかも、なお継続中です)。

これは、関大生を対象にした興味深いアンケート結果ですが、過ごし方の選択肢は一見すると、よくあるものばかりに思えます。しかしながら、皆さんがその時間で経験して考えたことは、決してありふれた内容ばかりではなかったはず。

世界や日本、家族や自分の今後を考えたり、友人や家族との新しい関係、新しい自分に気付く時間でもあったはずなのです。

この時間体験が、皆さんの将来の糧(かて)として有益となること、また皆さんがいずれ人の親となったときに、子どもたちに語り継いでいく歴史的な体験となることを願ってやみません。

次回のテーマは…「大学での学びを振り返る」(仮)

通常とは全く異なる対応を求められた2020年を振り返り、関大生のキャンパスライフにどのような変化があったのかを尋ねます。



地域づくりNPO / ジビエハンター

NPO法人 いのちの里 京都村 事務局長

林 利栄子さん

京都府立洛西高等学校出身
2011年政策創造学部卒業

農山村の支援活動と狩猟を通じて、 新しい価値観や選択肢を発見

林利栄子さんは「NPO法人 いのちの里 京都村」の事務局長を務める傍ら、週末はジビエハンターとして活躍しています。

大学卒業後、保険会社の営業職に就いたものの約1年で退職。「お客さまと本心で関われる仕事に就きたい」という思いで仕事を探すうちに、京都村の役員と出会います。そして、過疎や高齢化が進む農山村の活性化の仕事に興味を持ち、2013年から働き始めました。まず任されたのが実務担当の事務局長。知識も経験もないなかでのスタートでしたが、自分なりにできることを探し、京都府内の各地域を訪問。地道に交流を重ね、今では地域おこしの会合を開催できるまでになりました。

「自分が注目されなければ、京都村を知ってもらえない」がモットーの林さん。就農や移住をしなくてもできることを探していた時に参加した狩猟体験会で1人の猟師から「女性でもできる」と誘われ、狩猟免許を取得。捕食だけでなく、農作物を食べる害獣の駆除も行います。狩猟を始めて2年目の時、仕留めた雌ジカを解体するとお腹に子ジカが。「撃つ必要があったのか」と悩みましたが、母親から「困っている農家の役に立っているなら立派な仕事よ」と諭され、思い直します。その後、「ジビエを食べる会」や「狩猟見学会」などを開催したことから女性の猟師も増え、猟友会の若返りにも貢献。また師匠の猟師と共に、ジビエの衛生管理をまとめたガイドブックの製作にも着手しました。「地域交流や狩猟経験から、新たな価値観や選択肢を発見でき、自信を持ってました」と林さん。

「最初の就職は第一ステップにすぎません。そこで全てを決めるのではなく、臆せず次の一歩を踏み出しましょう。人生には思いがけない出会いや可能性がたくさんありますから」。



ある1日の
スケジュール



必須アイテムは、弾帯とナイフ、ジャケットに帽子。自然の音がよく聞こえる集音器。ジビエ調理に欠かせない「ジビエハンター・ガイドブック」。

VIVA!!

学び易



政策創造学部 政策学科

「専門演習1」

五十嵐 元道 准教授

現代の国際秩序に関する問題を分析し、 政策提言できる力を涵養する。

文献講読や情報収集、ディベートから「読解力」「文章力」「説得力」を身に付ける。

国際関係や外交政策について研究する五十嵐元道准教授のゼミでは、コロナの世界的流行による国際関係の変化に着目し、テーマを「新型コロナウイルス感染拡大後の世界秩序をどう捉えるか」に設定しました。

春学期は課題図書の見聞に加え、「コロナ禍での中国の監視体制の正当性」や「米中関係の構造的分析」について検討しました。メディアやインターネットから得られる情報も活用して作成したレポートを、ゼミ生全員が相互に読み合い、講評しました。また、各自が「平和」を定義し、それを実現するための貢献活動をまとめた提案書も作成。抽象的な思考を具体的な策に落とし込み、実現可能性を競い合いました。「リモートによる授業とレポートの発表を行うことで、読み書きの量が増え、学生の思考力や説明力が向上しました」と五十嵐准教授。「学生には、さまざまな情報や複雑な文章を読み解く『読解力』、自分の言葉で表現する『文章力』、そして『説得力』を身に付けてほしい」と続けます。

秋学期からのアカデミックディベートでは、現在の日本が直面する課題「憲法9条改正」「沖縄の米海兵隊の撤退」について議論。肯定派、否定派、審査員にランダムに分けられた学生は、客観的データに基づいて主張や反駁を行いました。これらの学習を通して、説得力はもちろん、論理の一貫性とチーム内でのコミュニケーション力の涵養にも取り組んでいます。

ゼミ生個人の研究報告ではテーマの社会的意義も重要です。「特定の問題について目標を整理し、分析に使用する言葉の定義を明確にする。その後、問題をモデル化し、活用資源を整理した上で、政策の優先順位を付ける。一連の流れで適切な政策提言が可能になる」という思考パターンを学びます。「コロナ禍の社会では、何が適切かを個々人が判断しなければなりません。国際社会でそれぞれが適切だと考える政策を提言できる能力が身に付くことを期待しています」と締めくくりました。



清水駿さん(3年次生)



先輩が主催するゼミの説明会に参加した際、五十嵐先生に直接アドバイスいただいたのがきっかけで選びました。課題は肯定も否定もできるものが多く、自分の意見を発言する機会も多いです。これまでは周りの意見に流されがちでしたが、理由に裏付けられた意見を言うようになりました。海外での居住経験とゼミで培った能力を発揮し、人に喜ばれる人材になりたいです。

福岡愛理さん(3年次生)



以前から国際政治に興味があり、1年次に受けた五十嵐先生の授業では、私の質問に対して親身に答えてくださり、その人柄に魅力を感じてこのゼミを選びました。他のゼミ生の良いレポートを読むことで、自分のできていないところを客観的に知ることができました。今ではゼミで培った文章力の成長を実感しています。将来は官公庁向けのIT企業への就職を目指しています。

コロナ禍で注目の「関大発COIL」

——オンラインの多国間学習で先行——

新型コロナウイルスの感染拡大で、各大学ともオンライン授業など不慣れな運営を強いられ四苦八苦です。とりわけ影響を受けているのが留学などを含む国際交流。世界的な「鎖国状態」のため、せっかく予定していた留学が次々に中止され、「何か代わりになるプログラムはありますか」という相談が各大学の窓口へ寄せられています。そこで今注目されているのが関西大学の「COIL」です。メディアにも次々に取り上げられているこのプロジェクトをのぞいてみます。

COILとは「Collaborative Online International Learning」の略で、オンラインによる国際的な協働学習の手法のことです。ICTツールで世界規模の大学間交流を行い、海外の学生とさまざまな分野のプロジェクト型学習ができるシステムです。

関大では2014年度スタート

この種の遠隔教育に早くから目をつけていたのは米国です。1990年代のスーパーハイウェイ構想を背景に、この分野が飛躍的に進化しました。米国ではこうした教育をバネにして実際に留学する学生が増えましたが、残念ながら日本などアジアを留学先を選ぶケースは伸び悩みました。こうした動きにいち早く反応した関西大学は2014年度からCOILを使った国際連携協働学習を始めました。

また、2018年度には米国教育協議会(ACE)から文部科学省に対し、COILを利用した日米大学間協力構想の提案があり、COILに関する知見を豊富に持つ本学が日本代表となって日米におけるCOILの普及を進めているところです。

学習内容は政治、経済や文化はもちろん、SDGsやビジネスプランの立案など、多岐にわたります。各国の学生との間で、交渉力や異文化への対応力が鍛えられるため参加学生が増えました。2019年度の受講生は延べ1,002人(日本人150人、外国籍の学生852人)に達しました。

COILを生かしたオンライン留学

そこへ思いがけない新型コロナウイルスの感染拡大です。関西大学では、昨年度は短期留学だけでも30ほどのプログラムを実施し、約630人の学生が渡航しましたが、今年は夏の予定を全て取り消しました。

全国の大学でも多くの学生が留学の夢を断たれる中、注目されたのが関西大学のオンライン型国際教育プログラムです。COILで培ったノウハウを十二分に生かして7月から9月まで実施。SDGs(持続可能な開発目標)をテーマに、学生140人(日本人32人、カナダなど13の国・地域の108人)が参加して、英語の講義を視聴しながら討論や意見発表を重ねました。コロナ禍が容易に収束しない限り、今後この種の取り組みはますます活発になりそうです。



写真は2019年以前に撮影



政策創造学部 2年次生

西村 咲希さん

チームの連携や個性を尊重することの大切さを学びました

高校野球の審判員だった父親の影響で野球に興味を持ち、高校で野球部のマネージャーを始めた西村咲希さん。高校時代にやり残したことがあり、大学でも野球に携わりたいという思いから、大学入学後すぐに体育会野球部に入部しました。

高校のマネージャーの仕事は、ノックのボール渡しや飲み物作りなどが主でしたが、大学では学内外の事務手続き、来客対応の他、ウェブサイトの管理やSNSの更新などの広報業務、合宿の準備や運営など、仕事内容が大きく変わりました。その他、文章を書くことが得意だという西村さんは、野球部会報「奪首×Dash!」の記事も執筆しています。

高校時代はマネージャーが一人という気楽さから自由に行動できましたが、今は監督、コーチをはじめ先輩や同期との連携に欠かせない「報告・連絡・相談」の大切さを学んだとか。特に上下関係に慣れるのには苦労したそうです。また、チームには考え方の違う人たちが集まるため、お互いの個性を尊重することの重要性も学びました。「個々の技術向上や成果だけでなく、野球を通して人間的に成長することを目指しているのが野球部の良いところ」と西村さん。

「心に残るのは、昨年の明治神宮大会での準優勝です。一喜一憂しながら、速報スコアをウェブサイトアップしていました。先輩と思わず抱き合うほど盛り上がったのが忘れられません」とほほ笑みます。

「今年の春はコロナ禍で練習も試合もほとんどなく、目標を見いだせずに落ち込む日々が続きましたが、秋からリーグ戦が再開して、少しずつ元に戻りつつあります。来年は全国優勝を果たし、選手と一緒に喜びを分かち合いたいです。そのためにも、選手が練習しやすい環境を一生懸命に整えていきます」と目標を語りました。



関大野球部をまとめるマネージャー
(最後列の左端が西村さん)

次回は、西村さんからのご紹介で三浦千尋さん(社会安全学部3年次生)が登場。お楽しみに!

Saki Nishimura

学部・研究科・併設校トピックス

法学部／法学研究科

法学部生の卒論事情

本学に限らず、卒論を卒業要件としない法学部は少なくないようです。法学部生は司法試験や公務員試験で忙しいとか、教員も学部生の時に卒論を書いた経験がないからなど、その理由については諸説ありますが、本当のところはよく分かりません。でも本学部には「研究論文」という科目があり、教務センターによると、それなりの人がこの単位を修得しているようです。

論文執筆に追われている皆さん、提出日は12月14日、15日、あと少しです!!

(副学部長 石橋章市朗教授)

政策創造学部／ガバナンス研究科

政策創造学部生に贈る100冊の推薦図書

新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの学生が大学での計画や目標を変更せざるを得なくなりました。そこで政策創造学部では、在学生に向けて「学びや生き方を探るヒントになる100冊の本」をリスト化し、パンフレットにまとめました。そこにはアカデミックなものからノンフィクションや小説まで、多岐に渡る推薦図書が並んでいます。何より一冊ごとに推薦者の先生による熱い想いのこもったレビューが添えられています。素晴らしい本との出会いが、多くの学生に訪れることを切に願っています。

(五十嵐元道准教授)

文学部／文学研究科 東アジア文化研究科

遠隔授業アンケート

文学部では、春学期5月末に遠隔授業に関する緊急アンケートを行い、その問題点や課題を共有しました。学生からの回答で一番印象に残ったのは、課題が多すぎて消化しきれないという不満でした。たしかに、通常の授業だと細かく課題を出さない授業も多く、出された課題を消化することはそれほど苦にはならなかったのでしょうか。それがほぼ全科目、毎週となると、たしかに過重な負担です。しかし、考えてみると、この負担は日常にあるべき姿ではないでしょうか。秋学期、何を考えなければならぬでしょうか。

(乾善彦教授)

経済学部／経済学研究科

卒論の提出時期が迫ってきました

4年次生の皆さん、いよいよ卒論の提出時期が間近に迫ってきました。今年度は関大LMSからの提出(提出期間:12月14日～12月21日)になります。私は今でも論文を書いているときには不安で押しつぶされそうになるので、皆さんの辛さはよく分かります。とはいえ、卒業前のさらなる成長の機会にもなります。長文の中でも全体の構造や論旨の一貫性を保つ力がつくのはもちろん、調べごとや分析をしながら課題や答えを見つけていくという発想力もつきます。ぜひ時間と気力を惜しまず費やしてください。

(北川巨太准教授)

人間健康学部／人間健康研究科

新生☆堺コッカラ体操

「堺コッカラ体操」ってご存知ですか?この体操は、2013年に関西大学と堺市との地域連携事業の一つとして誕生した「堺市版介護予防体操」です。開発から7年、堺市の一般介護予防事業としての活動を学生たちと一緒にサポートしてきました。しかし、コロナ禍で、市民の皆さんを集めての公演や体操教室の中止を余儀なくされました。そこで皆さんに安心して元気を届けるべく、リモートでの体操動画を配信することになりました。これからは遠隔versionでの新生☆堺コッカラ体操の研究・開発に取り組みます。(弘原海剛教授)

各学部・研究科・併設校のさまざまな活動や取り組みなど、トピックスや皆さんへのメッセージをお届けします。

商学部／商学研究科

BestAでビジネス英語習得を

商学部独自の海外ビジネス英語プログラムBestAは英国のヨーク大学にて、各国から集まった学生と共にビジネスに関する専門知識と英語を学びます。
*2020年度はCOVID-19の影響によりオンライン形式で行われる予定。2021年度の実施についてなどは後日お知らせします。

(朴泰勲教授)



総合情報学部／総合情報学研究科

データサイエンス教育プログラム(基礎/応用)を新設

総合情報学部では、開設当初より文系・理系の枠にとらわれず、社会と人間に対する広い視野と情報フルエンシー(利活用能力)を養う教育を行ってきました。本号で紹介された「データサイエンス教育プログラム」は、学部の特色である、文理融合の情報教育カリキュラムを基盤として、データサイエンス技法を様々な分野に応用する基礎力を高めるために設定されています。基礎/応用科目とも、文系、理系、学年に関係なく受講できますので、在学生の皆さんにはぜひ注目していただきたいと思えます。

(副学部長 林武文教授)

社会学部／社会学研究科

メディアエキスポ

社会学部では学生の研究活動をさまざまな形で公開してきました。例えば、メディア専攻では毎年1月に実習で制作した作品の発表会を開催しています。会場は梅田キャンパスです。たくさんのブースや企画が用意されています。学生広告賞応募作品、学生が制作したミュージックビデオ、社会問題を学生の視点から取り上げ調査と取材を繰り返し書いた記事、プロの指導を受けながら制作したドキュメンタリー映像作品など、学生たちの努力の結晶を一挙公開します。ご来場をお待ちしています。

(富田典英教授)

社会安全学部／社会安全研究科

コロナ禍のゼミ活動

社会安全学部では、すべての学部生が3年次生からゼミに所属し、卒業研究に向けた活動を開始します。今年はコロナ禍の影響により、春学期のゼミはオンライン形式となったほか、フィールドワークやゼミ合宿などにもさまざまな影響が出てしまいました。秋学期に入り、対面授業が認められるようになってからも試行錯誤は続いています。11月にはこうしたコロナ禍の各ゼミの活動成果を発表し合い、さまざまな経験や知恵を共有することができました。本学部におけるコロナ禍のゼミ活動の詳細は、学生ブログ「社安毎日」をご覧ください。(教務主任 奥村与志弘准教授)

心理学研究科

心理学研究科の新たな出発

心理学研究科は昨年度まで臨床心理の職業人の養成を専門職大学院で行って来ました。今年度より心理臨床学専攻として新たに出発することになりました。心理学専攻は引き続き継続します。

本研究科は認知、社会、発達、健康、計量、臨床を核にして心理学の様々な専門分野の専門家が集まっている総合的教育研究拠点で、全体で26人も教員を擁しています。心理学専攻では研究者養成と共に心理学の知見を用いた現場の問題解決に貢献できる人材を、心理臨床学専攻では公認心理師等の様々な心理臨床の領域で活躍できる人材を、養成します。(研究科長 中田行重教授)

関西大学北陽中学校

関西大学北陽中学校10周年

関大北陽中学校が創立10周年となる節目の年となりました。これも、全ての関係者の皆様のご支援のたまものと心より感謝申し上げます。

本校は、関西大学の併設校としてのメリットを生かした大学連携プログラムのもと、学びを人生や社会に生かすための力を養っています。また、ICT機器を活用し生徒の主体的な学習やアクティブラーニングなどを実施しています。昨今の新型コロナウイルス感染防止対策を視野に新たな学習方法や授業方法を構築する必要があります。今後は、10年間の作り上げてきた良い点を残し、新たな関大北陽中学校としてICT機器をより一層活用し、withコロナ体制での学校運営を目指します。(川崎安章教頭)

システム理工学部・環境都市工学部・化学生命工学部／理工学研究科

キャリアセンター理工系事務室の活用

12月になり昨年までであれば、1～3年次生は年明けの定期試験に向けて、4年次生は卒業研究の仕上げに向けて学友とともに、日夜勉学に励んでいる風景を見ることができましたが、本年はコロナ禍の影響のため大学だけでなく社会全体を取り巻く環境が激変したことにともない、大きな不安を抱えたまま年末を迎えることになりそうです。学生の皆さんの不安の多くは、単位を修得し無事に卒業できるのかとともに、就職活動はどうなるのかにも関心があると思えます。

本学の就職に関する取り組みとして、9月

下旬に開催された第1回の就職ガイダンスは、学科別で行われましたが、3年次生やM1生の皆さんは参加しましたでしょうか?また、教育後援会主催のご父母・保護者向けの地方懇談会や就職説明懇談会は本年度中止となり、代わりに「大学教育(学部)の現状と就職に係る説明会」としてWeb配信(オンデマンド)されました(10月6日～11月16日)。

本学では、他大学では珍しく「理工系学生のための」キャリアセンター理工系事務室があります(第4学舎1号館2階)。理工系独自の企業や職種など、各学科を担当するスタッフ

が理工系学生の悩みに親身に相談にのります。もちろん、対面だけでなくオンラインや電話でも相談を受け付けています。また、今秋から理工系学生のための企業セミナー等を、対面型、もしくは状況によってWeb型で順次開催しています。

不安な日々を過ごしているかもしれませんが、キャリアセンター理工系事務室では、皆さんの役に立つ情報を随時発信していますので、ぜひ積極的に利用して少しでも不安のない年末を迎えましょう。

(化学生命工学部 梅田壘教授)

Attention 大学からの重要なお知らせ

初めて試験を受ける1年次生必見!

「定期試験(筆記試験)」「到達度の確認」の注意事項・受験心得

① 学生証は必需品!

学生証がない場合は、試験を受験できません。
○紛失した場合:再発行の手続きを。
教務センター、または各キャンパス事務室にて。
○試験当日に忘れた場合:「受験許可証」の発行を。
教務センター・各学舎授業支援ステーション、または各キャンパス事務室にて。

④ 不正行為には厳正に対処!

不正行為をした場合は、秋学期試験ですでに受験した科目は全て無効になり、残りの科目も一切受験できません。また、答案の持ち帰り、故意に学籍番号・氏名を偽った場合も不正行為と見なされます。

② 遅刻は厳禁!

授業も試験も遅刻は厳禁。受験できない場合もあります。また、交通機関の遅延など、不測の事態にも対応できるよう、早めの通学を心掛けてください。

⑤ 病気など正当な理由で受験できない場合は…

医師の診断書など証明書がある場合は、「追試験」「到達度の確認」に相当する学力確認を受けることができます(1科目につき、受験料1,000円)。
教務センター、または各キャンパス事務室で手続きしてください。

③ 「試験システム」をチェック!

通常授業と曜限や教室が異なったり、同じ科目でも教室が分かれている場合があります。事前に「試験システム」の確認を忘れず。
○学籍番号・氏名を記入するため、ボールペンは必須です。(ただし、消せるボールペンは使用不可)
○携帯電話・スマートフォン、ウェアラブルデバイス等は時計として使用できません。

⑥ 成績発表の日時・確認方法

インフォメーションシステムで発表します。詳細は「試験システム」で確認してください。

関大トピックス

第43回関西大学統一学園祭 初のオンライン開催！

11月1日から4日まで、第43回統一学園祭を開催しました。今年は、新型コロナウイルスの影響により規模を縮小し、オンライン形式で実施。初めての試みとなりました。

今年の統一学園祭のテーマは「Re Action～笑う祭に福来る～」。このテーマには、新型コロナウイルスにより日常生活が一変した今、学園祭を開催することで皆さんに笑顔届けたいという思いと、関大生が行動し挑戦することで笑顔あふれる日常生活が戻ってきてほしいという願いが込められています。

期間中は、ステージライブやファッションショー、関大生と留学生の交流を深めるクイズ企画などをオンデマンド配信したほか、小説『今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は』（小学館）を出版する卒業生のジャルジャル・福徳秀介さんのインタビュー動画を公開。

さらに、テレビアニメ『鬼滅の刃』の主題歌「紅蓮華」の作曲者で、卒業生の草野華余子さん（シンガーソングライター、作詞・作曲家）と越前屋俵太さん（総合情報学部特任教授）によるトークショーを配信しました。



体育会漕艇部男子が、第5回西日本選手権競漕大会で優勝

9月26日、27日に大阪府立漕艇センターで開催された第5回西日本選手権競漕大会において、体育会漕艇部が男子エイトで、同部史上最速タイムとなる5分52秒56で優勝しました。

さらに男子ダブルスカルでも優勝を果たしました。



体育会漕艇部提供

学校法人関西大学 新理事会が発足

任期満了に伴う役員改選により、10月1日開催の臨時理事会において、理事長に芝井敬司氏、専務理事に矢野秀利氏、常務理事に土橋良一氏が選任されました。

また常任理事には、大津留智恵子氏、高岡淳氏が選任されています。

いずれも任期は2020年10月1日から4年間です。



理事長 芝井敬司氏



専務理事 矢野秀利氏



常務理事 土橋良一氏

関大人 四方山話 ◆「魔法の数字」 東京センター 小林 亮介



三種の神器、世界三大珍味、三匹の子豚など「3」という数字は物事の例えや比喩表現によく用いられますが、これは人が記憶するのにちょうどいい数字なのだからだそうです。それで「3」は魔法の数字と言われる。

Appleのスティーブ・ジョブズ氏は優れたプレゼンテーションを行うことで有名でしたが、その理由の一つがこの「3」を活用していたことだと言われています。iPhoneの発売時のプレゼンテーションでは、「iPod」「電話」「インターネット」を組み合わせた発明品だと紹介し、iPad2発売時には「薄い」「軽

い」「高速」と3つのワードで商品を印象的に伝えました。日本でも吉野家の「うまい、やすい、はやい」というコピーは有名ですね。

さて、これを踏まえて私が勤務する東京センターを魔法の数字でご紹介。「アクセスよし」「居心地よし」「サポートよし」——この3つをコンセプトに、オール関大の交流ハブとして、関大発の知のちから・人のちからをパワフルにサポート&アピールしています。学年・用途を問わず、関大生はどなたでもご利用いただけますので、東京へお越しの際は、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

編集後記

「関大のAI人材教育」「ここちいい時間の過ごし方」「地域づくりNPO・ジビエハンター」「現代の国際秩序に関する問題を分析し、政策提言できる力を涵養する。」「オンラインの多国間学習で先行」…。この12月号の記事のタイトルを並べてみると、バラバラでまとまりがないように思えますが、これは学生の皆さんの興味・関心の多様性を尊重して、多様な学びの場を提供し、社会に多様な人材を育成・輩出している関西大学の豊かさや温かさ、そして自由を表現しているように思います。

(広報委員・商学部准教授 長谷川伸)



関西大学通信 “KANDAI STYLE”

発行日:2020年12月1日

発行:関西大学広報委員会

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

電話:06-6368-1121 (大代表)

感染拡大予防策を講じた上で、取材や制作を行っています。

今月の表紙



作者:文化会美術部 荒木 美緒さん(文4)

作品名 [In Front of KU Library] テーマ:ビッグデータ

膨大な数の資料を所蔵している図書館を背景に、さまざまな格好をした人が歩いている様子をドット絵にしました。蓄積された知識や情報と、それを扱う人によってより良い社会へ変化していく予感を少しでも表現できていたら嬉しいです。